

平成25年度 第3回旭市道の駅建設準備委員会 会議録

日 時：平成25年7月30日（火）

午後3時～午後5時20分

場 所：市役所3階委員会室

事務局：企画政策課

1. 開会

代理出席（増田委員代理：海匠農業事務所竹内主任上席）報告

欠席（宇畑委員、加瀬委員）報告

2. あいさつ

委員長：今年度3回目の準備委員会に参加いただきありがとうございます。今後も第3セクター設立準備等の重要な協議事項がありますので、よろしくお願ひします。

市長：大変お忙しい中第3回委員会に参加いただきありがとうございます。議事内容も佳境に入ってきた。現在実施設計や不動産鑑定、また地権者から土地の立入許可を得て、用地測量を行っている。また、第3セクター設立に向けた検討も始まる所であるため、今まで以上に活発な意見交換をお願ひしたい。

○商工会よりモツカレーの紹介

平野（陽）委員：商工会内のサービス業部会で、以前から地元特産品を活用して新商品を開発したいという考えがあり、様々な議論を行ってきた。旭市は全国4番目の豚肉生産地であり、これを何とか利用したいということから、平成20年に「もつ部会」を立上げた。もつ料理を研究した結果「カレーに入れてみてはどうか」との意見から、市内飲食店協力のもと試作品を作成。その後各イベントに参加し、試食アンケート等を行い味の改良を行った。現在もつ部会には市内の飲食店が21店舗参加している。今後も様々なPRと新たなもつ料理の商品開発をし、旭の特産品にしたい。

○農業委員会より農業委員会本会議への道の駅事業説明結果報告

小島委員：7月22日の農業委員会本会議において、事務局に事業説明をしていただき質疑応答を行った。当日農業委員は27名全員の参加であり、質疑を含め約1時間程度の内容であった。主な意見としては、駅長は地元のしがらみがあると何かと不便するので、地元以外の人も検討すべきである。また、採用時期は可能な限り早い方がいいとのこと。また、せっかく道の駅を整備するならば十分な利益が見込めるような運営計画をしなければならぬとの意見もあった。その他では整備費用についての補助金等についての意見もあったが、主な意見は以上である。

○事務局より報告事項

千葉県農業事務所に日程を調整していただき「指導農業士及び農業士との意見交換会」を8月8日に行うので、次回委員会では結果の報告をしたい。

3. 議題

(1) 公募における駅長の募集方法と採用時期の検討について

- ・ 駅長採用までのスケジュールについて説明
- ・ 採用における内容と方法について説明
- ・ 公募による駅長の先進事例（道の駅萩しーまーと「中澤さかな」氏）紹介
※いずれも事務局により説明

各委員からの意見

委員：事務局からの成功事例を聞き、是非公募の可能性にかけたいと感じた。しがらみ等の問題を考えると、地元の人以外の採用が望ましいので、どれだけ広く周知できるかが問題だろう。

委員：農業委員会の説明時にも意見があったが、設計段階から駅長には入っていただき意見を反映できればよい。

委員：公募と派遣依頼の両方に可能性はあると思う。他の事例では80%が派遣依頼であるとのことだが、個人的には広い専門知識をもった方がよいと思っている。今後は失敗例等も取り上げ、問題点が洗い出せれば、採用において参考になるのではないか。また駅長は早期に採用し準備委員会へ参加していただきたい。

委員：紹介のあった中澤駅長は非常に素晴らしいと感じた。ただ、こういう素晴らしい人材に来ていただくのは実際は難しいのではないか。採用時期については事務局案で問題ないと感じた。とにかく人柄が大事である。

委員：具体的な人物像を上げることは難しいが、旭の魅力を見つけ出すことが出来る人で、とにかくやる気のある人を採用すべきである。

委員：派遣依頼の方がリスクが少ないのではないか。今回の成功例を聞くと公募にも魅力を感じるが、この場合は応募資格等の条件をよく整理しておかないと、こちらの希望とは違う人物を採用しなければならないことになる恐れがある。

委員：ふれあいパークの駅長は素晴らしい人物である。旭市にも地元の中に素晴らしい人材がいるのではないか。まずは市内で探してみてもどうか。

委員：以前発言したのがまさに今回紹介のあった中澤氏である。締切り後の応募に関わらず萩市も熱意を買って受け入れた。この方は道の駅の成功例と失敗例を全て自費で現地調査を行った。こういった熱意が大事である。公募優先で考えるべきだろう。

委員：公募で行うならば、時間をかけて幅広く周知することが重要だろう。いずれにしても最初から全てを完璧にできる人はいないので、研究心や探究心でカバーしてくれるような方が見つければよい。面接試験等で人柄をよく判断することが大事であ

る。

委員：儲け意識だけではなく、「地域をどう盛り上げるか」という思いが強い人がよいのではないかと。採用時期はできるだけ早くして、生産者組織との関係作りを行うべきである。

委員：自分が応募者だとしたらという観点で検討してみたが、説明のあったスケジュールでは8月頃採用予定となっているが、4月（年度当初）にすれば仕事の区切りや子どもの転校等の諸事情も解決できる可能性が高くなるか。また、中澤駅長の成功事例の紹介があったが、極端な成功事例と比較するのはどうかと感じた。全て良い面だけではなく、悪い面も取り上げた紹介があった方がよかった。最初から全てを求めすぎてはいけない。

委員長：今回の資料である地域活性化センターの報告書にも非常に参考になる事例が記載されているので、委員の皆様にご覧いただき次回委員会の参考にしたいと思います。また、資料の内容から今まで本委員会での様々な検討結果が間違っていないことが再確認できる。

委員：公募がいいのではないかと。駅長に何をメインに求めるのかははっきりした方がよいだろう。採用時期はもう少し早い方がよいと感じた。

委員：公募がよいだろう。地元を知らない方が時には市内の新たな魅力を再発見できるのではないかと。また様々なしがらみを断ち切るためにも地元出身ではない方が可能性があると感じる。

委員：個人的には公募と派遣依頼の両方の可能性を考えている。求める人物像としては、①物販や流通に精通している②やる気がある③旭の農水産物の情報発信が出来ることの3つではないかと。石巻市の上品の郷の駅長は「すぐやる」「できるまでやる」をモットーとした素晴らしい人物である。

市長：委員の意見の大多数は採用を早めた方がよいとのことであるが、それには賛成である。旭市は農水産物の大産地であり、仮に公募で行った場合、市外の採用となれば、地元との摩擦が必ずできると思うので、地元理解を図り一緒に研究する為にはある程度の期間が必要なのではないかと。組織や団体によっては道の駅に対する理解があまりないとの意見もあったので、そういった方達とのすり合わせの時間が必要ではないかと。駅長はその資質と人間性が非常に重要になってくるので、面接試験等でよく判断しなければならないだろう。また、なるべく早い時期に本委員会に参加していただきたい。

事務局：前回検討した指名採用候補者について、委員の皆様から何か具体的な案はありますか。

委員：意見なし。

事務局：この議題は次回比較検討を行い、募集方法を決定したいと思うので、委員の皆様にも次回までにそれぞれ考えをまとめておいていただきたい。また公募に決定した場合でも、派遣依頼をやめるわけではなく、引き続き人材探しは行い、いい人材が見つければ公募に参加してもらったり、公募を取りやめるという方法もある。

(2) 第3セクター設立作業部会について

- ・構成委員について確認
- ・部会開催内容について説明（準備委員会と同日）
- ・設置要領の確認及び部会長、副部会長の指名
「部会長：平野忠作委員」「副部会長：椎名正剛委員」

平野部会長あいさつ

部会長の指名を受け非常に責任を感じている。道の駅建設に向けて委員長と議会で8年間取り組んできた。先進地視察を30箇所以上行ってきたので、その実績を活かしたい。法人運営計画、長期経営計画等の重要議題となるので、慎重な協議をしながら進めたいのでよろしくお願いします。

椎名副部会長あいさつ

平野部会長をサポートして進めていきたいのでよろしくお願いします。

(3) 道の駅建設工事設計業務の実施について

- ・契約までの経緯等（プロポーザル実施）の説明
- ・(株)千都建築設計事務所の紹介
- ・設計業務における今後のスケジュールについて
- ・千都建築設計事務所より技術提案内容の説明

各委員からの意見

委員：飲食スペースについては現在何席程度を想定しているのか。

設計事務所：約60席を想定している。

委員：大型バス等で団体客が来た場合には対応できないのではないかな。

設計事務所：団体客を想定した整備をしてしまうと、通常時には閑散としたスペースになってしまう。一度に受入れ出来ない団体が来た場合は、2班に分かれてもらうなどして、片方の班が食事している時は、もう一方の班に直売所で買い物をしてもらうなどして対応できるのではないかな。

委員：他の道の駅の事例では、通常は会議室として利用する部屋を一時的に団体客の受入れ対応に活用しているらしい。そういった多目的スペースの整備も必要では。

設計事務所：検討事項としたい。

委員：花木スペースについて円形のガラスハウスを提案しているが、別棟になってしまうと一般の方、特に若い年齢層のお客は来てくれないのではないかな。また飲食施設と連結した整備をしていただければ、食事をしながら花を眺められたりして非常に有効利用でき、今まで花にあまり興味がなかった客の発掘にも期待できる。また、切花等をレジ脇に置いて販売するのもよいと考えている。

設計事務所：今後の設計において方向性を出したい。

委員：今回整備する道の駅は、東金有料道路の野呂 PA からの距離や、横芝光のインターから銚子方面へのルートを考えて休憩箇所としては非常にいい位置にある。トイレ休憩に訪れた客を直売所に呼び込む工夫が必要である。

委員：飲食しても直売所に寄らずに帰ってしまうような構造ではいけない。

委員：お客はなるべく施設の近い所に駐車したいと考える。道路に平行な配置にすれば、駐車場から施設への距離が大体均一になる。また、今回の資料である「道の駅を拠点とした地域活性化」のアンケート結果を見ても、増設する時のことを考えて整備した方がよいと記載がある。是非増築等の可能性についても設計上考慮していただきたい。また西日等のデメリットもあるが、そういった点は準備委員会で十分議論してきた。旭の道の駅にはライバルが多く、近隣市町でも計画が進められているため、あまり小さい整備だとライバル施設に対抗できないのではないかと感じている。

委員：レジカウンターが施設の入り口付近ではなく、施設内の奥にレイアウトされているが、不自然ではないか。通常だと駐車場側の出口付近にあり、買い物した客が最後にレジを済ませるのでないか。

設計事務所：忙しい時期や時間帯にはレジに人が張り付くが、必ず常駐するわけではないため、バックヤードとの出入りをスムーズにすることを考えた。またこの配置であればレジ係が施設内を見渡すことができる。

委員：旭の道の駅は相当な集客が見込めるため、レジには必ず1人か2人位は従業員が常駐することになるだろう。

設計事務所：駐車場側から来場者に商品をよく見せたいという狙いもある。

委員：太陽光発電の意見を取り入れていただきありがたいと感じている。どの位の規模の整備を想定しているのか。

事務局：整備する規模により屋根の形状等も変わってくるため今後も検討が必要であるが、施設のデザインに配慮しながら屋根スペースを十分活用したい考えである。

委員：大規模な太陽光整備には賛成だが、整備の仕方によっては、パネルばかり貼り付けた結果工場のような殺伐とした感じになってもよくないので、愛着の持てる外観にしたい。

委員：売電するまではいかなくとも、旭の道の駅は再生エネルギーで運営していると PR するには自家消費電力を賄える程度の整備をしたい。国の補助金を受けることで様々な制約を受けるようであれば、単独整備も考えなければならない。再生エネルギーを前面に押し出した整備を考えるなら、風力発電も是非やるべきである。

委員：旭の景観を活かすため、見晴らしのよい施設があれば景色を見渡せてよいのではないか。また、訪れた方が体験出来る場所を整備するとよい。家族で加工体験をして、作ったものを持ち帰れるようなシステムも面白いのでは。

委員：将来を考えた増築スペースがあってもいいのではないか。

ゾーニングの検討について

敷地に対して施設を平行に配置したパターン1及び前面市道に対し施設を平行に配置

したパターン2について、千都建築設計事務所より説明。

市長：今までも議論してきたが、配置の件については重要な部分である。ただ、今後の拡張（増設）等についても設計上で考慮していただきたい。また、道路からなるべく長い距離施設を見せることができれば、通り過ぎてしまう車両を少なくすることが出来るだろう。道路と平行な配置のパターン2の方が適しているように感じる。

委員：石巻市の上品の郷は道路に対しての距離が非常に長く、通り過ぎてしまうということが少ない。

設計事務所：パターン1と2では三角形土地利用の仕方では考え方が変わってくる。パターン1は施設の前面で三角形が発生し、パターン2では施設の裏側に三角形が出来る。この土地の利用方法についてが大きな違いになる。

市長：従業員等の利便性よりも、まずはお客が利用しやすいことを考えるべきだろう。

委員：図面だけで検討せず、一度現場を確認してみるとイメージしやすいのでは。また、調整池を建物の下に整備するのは、安全面ではいいかもしれないが後々の維持管理等に支障はないのか。オープンな池の整備をして、子供がザリガニ釣りできるような環境もよいのでは。都市部のように用地確保が難しい箇所で行う手法であるので、わざわざ旭で行なう必要があるのか。

設計事務所：池への転落等の危険防止や敷地の有効利用から提案した。今後の地盤調査の結果を踏まえ詳細を検討していきたい。

委員：雨天時に対応するため、イベント広場に屋根を設置することはできないか。雨の日もイベントが出来るような整備が望ましいと感じる。他の道の駅では週末は毎週イベントを実施している所もある。

委員：今回の資料には防災面での整備のことはあまり記載されていないが、被災地である旭市の道の駅であるので、駐車場ヤード等も活用し防災面整備をPRしてみてもどうか。

事務局：防災に関する提案については次回資料でお示ししたい。

委員：パターン1と2を比較すると、1は駐車場北東の端から施設までの距離が長いので、歩くのが大変ではないか。この配置だと、車から通った時にも随分奥に建物があると感じるのでは。一度現地で確認するのもよい考えである。

市長：今は現地には田と畑しかないので、現地に行ってもうまくイメージ出来ないのではないか。

委員：道路に平行な配置ならば、駐車場から施設への距離が大体同じになり、施設の道路側には三角形の土地が少ないため、来場者が非常に利用しやすい。この配置であれば建物が道路から長い距離眺められるため施設自体が巨大看板のような役割ができるのでは。

市長：各委員に次回までによく検討していただきたい。

(4) その他

- ・「道の駅」を拠点とした地域活性化（財団法人地域活性化センターによる調査研究報告書）の要点を事務局より説明。

終 了